



題字 井口 文章
再刊 第258号
印刷・発行
錦城高等学校新聞委員会
編集室 2018

みんなで作る
錦城高校新聞

一面：新入生 宿泊研修 仲深まる3日間
今年ドイツからの留学生
個性光る22人 第1弾

自然の中でつくる 仲間との思い出

56回生、河口湖で宿泊研修

4月16日(月)～18日水に、1年生が山梨県の「富士緑の休暇村」で宿泊研修を行った。あいにくの雨で飯盒炊爨は中止になったが、生徒達は運動会やキャンプファイヤー、フォークダンスなどで親睦を深めた。(1年生共同取材)

雄大な富士山に迎えられて

4月16日(月)、56回生総勢522人は、まだ知り合っていない仲間もいるクラスメイトと共に、河口湖の小海公園に到着した。



大激戦となった運動会。「台風の日」では各クラス全力で走った

期待や不安など様々な感情を抱きながらバスに乗った。2時間ほど経ち、バスは河口湖の小海公園に到着した。

東京では散ってしまった桜が、現地の山梨では富士山を背景に満開。生徒たちは「きれい」など感動の言葉を漏らした。クラスで輪になって昼食をとり、美しい湖のそばでたくさん仲間と親睦を深めることができた。

宿に到着後、オリエンテーションが催された。芦澤貴典先生により校則の説明や校歌の練習などが行われ「錦城生になる」という、宿泊研修の目標を再確認した。

夕食後のフォークダンス練習では、最初はダンスを覚えるのに一杯で掛け声も少なかった。次第に慣れていくうちに、笑顔も見えるようになり、本番への期待が高まった。

白熱した運動会と キャンプファイヤー 気温も低く、小雨の降る2日目。朝食の後、飯盒炊爨が中止になった。



引きつ、引かれつ、真剣勝負

その後、生徒代表の筒井王羅くん(1E)と田中美海さん(1E)の2人が「女子の前でもカッコつけず、男子の前でも可愛い子ぶらず、正々堂々と戦うことを誓います」とユニフォームを脱ぎ、選手宣誓をした。

3日目は前日に増して雨が強く、屋内で運動会2日目が行われた。この日の種目は「おたまりレ」で「階別対抗デカ」に期待を寄せた。

バスで出発し、生徒たちは帰りの途中、河口湖畔にあるレストラン「みはらし亭」で仲間と共に最後の昼食を摂った。その後、行きと同じ中央高速を通過して小平駅に着いた。56回生の真の錦城生になるための宿泊研修は無事終了した。

将棋部、ラジオオデビュー

4月14日(土)に将棋部がFM西東京のコミュニティ「ラジオ番組」の対局。上田さんが複数人の相手をする取材を受けた。取材内容は、番の対局方法を取り、上田さんのパーソナリティを務める、プロの女流棋士である上田初美さんと対局した。



対局後、将棋部に指導する上田さん

眼差して目の前の盤を見つめながら慎重に手を動かす。終盤に差し掛かるにつれて対局の緊張感が増し、3人の表情も苦しげになってきた。結果は錦城高校将棋部が1勝2敗。池崎可南子さん(3C)が最後まで粘り、辛勝した。

最後は上田さんは、「失敗を恐れず仲間と切磋琢磨して、目標に向かって突き進んでください」と将棋部にエールを送った。レベルの高い対局で多くの経験を積んだ将棋部の更なる躍進にこれからも期待したい。今回の指導対局の様子を「小平MIIX2」で先日放送され、同番組のHPからいつでも聞くことができる。ぜひチェックしよう。(和)

「おたまりレ」では、ピンポン玉を落とす「フアイト」とお互いに励ます姿が見られ、接戦になる度に会場が盛り上がりを見せた。

「おたまりレ」では、ピンポン玉を落とす「フアイト」とお互いに励ます姿が見られ、接戦になる度に会場が盛り上がりを見せた。



薄暗い体育館に火の精登場

薄暗い体育館に火の精登場。大縄跳びではどのクラスも声を揃えて跳んだ回数を決え、早くもクラスの団結を感じられた。

運動会終了後、田村伶士くん(1D)は「雨で残念だったけど、クラス全員で頑張れて良かったです。男女やクラスの垣根を越えて楽しむことができました」と話した。

閉村式では、はじめに運動会の結果が発表された。「大縄」「台風の日」「綱引き」「階別対抗デカ」「おたまりレ」の4種目全てで1位だったD組が圧倒的な強さで総合優勝。準優勝はおたまりレで優勝したK組、3位はいかだ流しで優勝したA組となった。



『UNKNOWN』の心躍らせる演奏

4月14日(土)、多目的ホールで軽音楽部16バンドによる新歓ライブが開催された。トップバッター「元祖キーン」は『REYALK』の『MONSTER』を披露。曲の途中、ボーカルが「おいおい」と声を掛け、観客全員がホールを走り回り、会場の空気を温めた。



華やかで新鮮な組み合わせ

邦楽&ギター同好会 4月14日(土)、3Fの教室で邦楽同好会とギター同好会による合同発表会が行われた。邦楽3年による『水戸』やギター同好会2年による『DAYS』を披露。曲の途中、ボーカルが「おいおい」と声を掛け、観客全員がホールを走り回り、会場の空気を温めた。

日本文化に興味津々 ドイツからの留学生

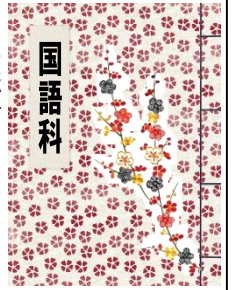


真直ぐな瞳で高校生活の期待を語るイネスさん

ドイツのパーベンベルクから来たクルーゼム・イネスさん。1年E組に在籍中で、ドイツとはまったく違う日本の文化や日本語のきれいな発音に興味をもち、日本に来た。クラスメイトからは「イネス」と呼ばれているそう。「みんな優しく、色々教えてください」。ドイツでは教室の掃除をしないため、錦城の教室のきれいに驚いていたイネスさん。まだ授業が始ま

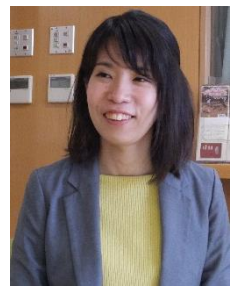
たばかりだが、音楽と英語の授業が面白かったと話す。今は倫理の授業を楽しみにしているそうだ。イネスさんは言語に興味があり、母国語ではない英語を話すことが好きだという。「とりあえず日本語話せるようになりたい!」と意気込んだ。日本に来て1ヶ月。クラスメイトともいろいろ話をし、楽しく過ごしているそう。好きな日本食は「たまにお弁当に入っているおにぎり」とイネスさん。今年の12月まで錦城で学校生活を送る予定だ。笑顔がとても素敵なイネスさんにたくさん話しかけて仲良くなる。(藤)

むらさき草 小学3年生の時にカメラを手に入れた。それから何年もカメラに触れ続けた。高校に入り、友人に教えるを「ミニチュアル」という全ての設定を自分で選択するモードを使えるようになった。シャッタースピードや絞り、ISOといった、最初は聞いても良く分からなかったものを少しずつではあるが操れるようになった。今撮っている写真自体の表現の幅は以前に比べて広がったが、テクニクがあまり身に付いていないのが少し悔しいときもある。4月の初旬に桜が咲いたので、ある日の登校中にカメラのシャッターを切った。振り返ってみると写真は、日常の一枚といった雰囲気が出て久しぶり自分の中で納得のいく一枚だった。だが、時に設定が上手くいかず、色味がおかしくなったり、撮り損ねたり、ぶれてしまったりといったことが多発した。そこで、「流し撮り」というテクニクを選択し撮影をした。正直、うまいとは言えない写真であったけれど、大変勉強になった。取材だった。何事も選択という行動が人には必要だ。なにもカメラの設定だけではない。1年生は錦城高校に入学するという「選択」をした。2年生や3年生も文理や科目選択と言った多くの「選択」をしてきたはずだ。選択には時に勇気がいる。カメラの設定も安定的な設定を狙うか、それともいつもとはちょっと変わった、人がやったことのないような設定を試みるか。そんな勇気のある選択を経験したことは無いだろうか。桜はまた来年になったら花が開く。それまでに花を咲かせるための養分を蓄える。人も同じだ。自分に何が必要かを見極め、選択しなければならぬ。可憐な一人ひとりの花を咲かせるために。(橙)



国語科

北上 桜子先生
現代文(2・3年)



「人を豊かにする仕事をしたい」

「人を豊かにする仕事をしたい」というのが、北上先生が教師になった理由だ。高校時代は、吹奏楽部の副部長を務めていた。部長と部長が対立したときには双方の意見の良いところを伝えるなど仲介役としての役目をする。

教師以外の趣味が映画鑑賞ということもあり、映画製作にも興味があったそう。高校時代で一番印象に残ったことについては、「2年生のときにアルバイトして、そのお金で韓国に行ったことですね」と語った。

小長井 涼先生
現代文(2年)
国語演習(3年)



短歌を作ることが趣味の小長井先生。近代文学の研究をしていく中で、文学作品の楽しさを伝えたいと教師を目指したという。

「短期間の勉強なら参考書でもいいと思うが、長期の勉強としてなら幅広く語彙を増やすことが重要」とアドバイスしてくれた。

前田 杏生先生
古典(1年)・漢文(3年)



「楽しい授業とは何かっていつも考えています」

高校生のとき、教科書を一切使わずに面白い授業を展開した現代文の先生に憧れ、教師を志したと話す前田先生。高校生の時に始めたホルンは今年で10年目だという。吹奏楽部の見学に行ったときに先輩に泣きつかれて始めたそう。

菅野 優香先生
漢文(2年)・現代文(3年)



菅野先生は人と関わることや本を読むことが好きで、中

新任22人の先生方と新たな錦城へ

今年の新任の先生は総勢22名。人数が多いため、今号と次号とに分けて紹介する。今回は第一弾！国語科、数学科、養護の先生に話を伺った。個性派ぞろいの先生に、積極的に話しかけてみよう。(編集部共同取材)

学生るとき先生になることを決めたという。おつまみを好んで食べるそうだが、「牡蠣は天敵」と嘆く。2〜3年に一度牡蠣を食べることに挑戦するが、その度に断念すると笑った。国語のオススメの勉強法は「関連づけること」。知識を結びつけることで、問題を解くことを面白いと思えるようになるという。



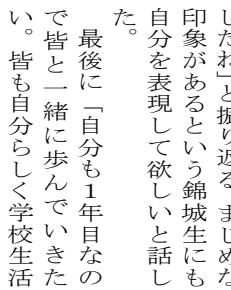
演田 真吾先生
古典(2年)・古文(3年)

2年理系の古典と3年文系の古文を担当している演田真吾先生は、受験生のときから古文が好きだったという。受験生のときに読んだ徒然草の文章に面白いエピソードと人生の教訓が一緒に入っていることに興味を持ち、大学では日本の中世文学を専攻。大学の卒業論文では徒然草をテーマに選んだそう。

中澤 椋太先生
現代文(1・3年)
国語演習(3年)



「生徒の頑張っている姿が見たい」と思い先生になった中澤先生。1年J組とK組の副担任をしており、フットサル部と邦楽同好会の顧問を担当

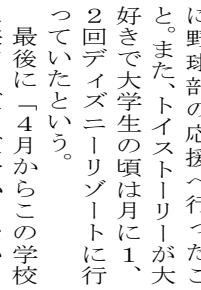


鈴木 和先生
古典(1年)・漢文(3年)

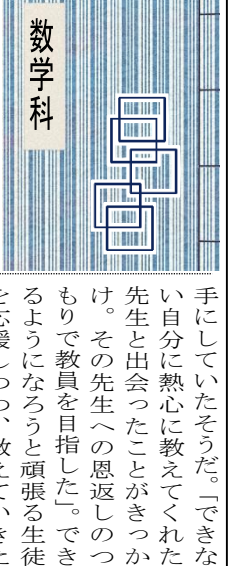
最後に「自分も1年目なので皆と一緒に歩んでいきたい。皆も自分らしく学校生活を送ってほしい」と一言をくれた。

鈴木先生は、1年生と3年生の古典を教えており、バンドメンバーと吹奏楽部の顧問をしている。教師になる前、最後の先生に憧れたから。中学より高校ならもっと本格的に古文を教えられると思う、高校の先生を目指したという。

高橋 大輔先生
数II(2年)



高橋先生に錦城生の印象を聞くと「とても静かだが、頑張っているという熱意は感じられる」と話す。



数学科

鈴木 友里恵先生
数I(A1年)



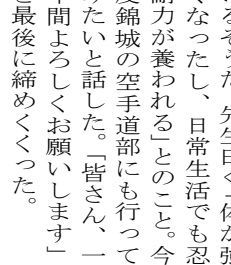
「コミュニケーションを豊富に」

子供が好きということが先生になった理由だと鈴木先生は語る。そして、「数学を嫌い」と思っている人が少しでも面白いと思えるようにしたい」と意気込んだ。

齋藤 太智先生
数I(A1年)



中学校でテニス部、高校では合唱部に所属していた齋藤先生。「数学の魅力は途中式が大変でも答えが合っていた時の達成感にあると思います」と自身の数学への想いを明かす。

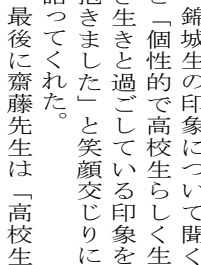


「数学の達成感を味わってほしい」

中学生の頃、数学が苦手な友達に解き方を教えると「とても分かりやすかった」と感謝されたときの嬉しさから数学教師を志したそう。大学時代に自分には数学が得意ではないと決意を強めたことがきっかけとなった。

養護の金子先生。高校ではチアリーディング部に所属していた、野球部などの応援に明け暮れていたという。養護の仕事に就いたのは、医療の現場にいたときに亡くなる人を見て、若い時の健康への働きかけで救える命もあると思ったことがきっかけ。「保健室は怪我や病気になった時以外にも、学校生活を健康に過ごすサポートができる場所」と話す。

田代 やよい先生
「何かあれば気軽に相談を」



若い人たちの役に立てれば、と保健室の先生になった田代先生。毎週水曜日と土曜日に保健室で働いている。以前は会社の保健室に務めていたそう、対象となる年齢が違ったり仕事も雰囲気も異なることが新鮮なようだ。

ペットはなんと46匹の金魚

「魚を飼うということは、水を飼うということ」

今回のペットは1年K組のMくんの金魚です。初めて金魚を飼い始めたのは、6年前。釣り堀にいた金魚を持ち帰り、飼ったことが始まりだといいます。そして、3年前に水槽を買ったのをきっかけとして本格的に飼い始めたそうです。飼っている金魚の数は、なんと46匹。環境の変化ですぐに駄目になることもあり大変ですが、奥が深くやみつきになりやすいと言っていました。

飼っている金魚の中で一番多い品種は、「東錦」だそうです。三色出目金の系統で藍色をベースに赤と黒が入り混じった雑色で、一部の愛好家に人気の品種です。個性が強いのですが、ひれが長いところなどが好きだと話していました。2番目に多い品種は、「水泡眼」。ランチュウ型の金魚で、眼球の角膜のみが大きく膨らんだ水泡と呼ばれる部分が特徴的です。最初の水泡は小さいのですが、成長していくにつれて大きくなっていくことに喜びを感じるそうです。ユニークな見た目がかわいいと言っていました。現在は46匹ですが、今後はもっと魚を飼っていき、いずれは養魚場をつくりたいと話していました。

丸い形が可愛い白とオレンジの蘭錦(ランチュウ)

大会報告

ソフトボール部
▽4月22日(日) 春季大会(支部予選)
対都立東大和 7対0 (勝利)
対都立東大和南 4対0 (勝利)
対都立東大和 4対0 (勝利)
対都立東大和南 4対0 (勝利)
対都立東大和南 4対0 (勝利)

生徒会 動静
4・13～4・30

4月16日(月) 2年錦城祭 実行委員会
17日(火) 3年錦城祭 実行委員会
19日(木) 1年錦城祭 実行委員会
23日(月) 錦城祭クラ ス企画説明会
24日(火) 錦城祭有志団 体企画説明会 保健委員会